




吉野作造記念館

～常設展示の見方・読み方～

Vo.1 (2023年2月公開)



1 吉野作造の活動

2 吉野作造の生涯

3 吉野作造記念館の常設展示を見てみよう

吉野作造 1878～1933年（明治11～昭和8）

宮城県大崎市出身の政治学者。「民本主義」を提唱。

「大正デモクラシーの旗手」として知られる。

1 吉野作造の活動 ～4つの領域



① 学者としての活動

= **政治学**、比較政治史（近代化や民主主義の歴史を国際的な視野で研究）

⇒ 日本のデモクラシー（民主主義）の歩みを歴史的な視点から客観的に考えることが出来た。

〈主な研究テーマ、関連事項〉

- ・ ヨーロッパ現代政治史 ⇒ 西洋留学（1910～13年）、第一次世界大戦
- ・ 中国革命史 ⇒ 中国革命運動家との幅広い交流
- ・ **明治文化研究** ⇒ 日本の民主主義発展の歴史を考察

② ジャーナリズムでの活動

= 雑誌『中央公論』を主な舞台に政治評論

〈主な業績・活動、関連事項〉

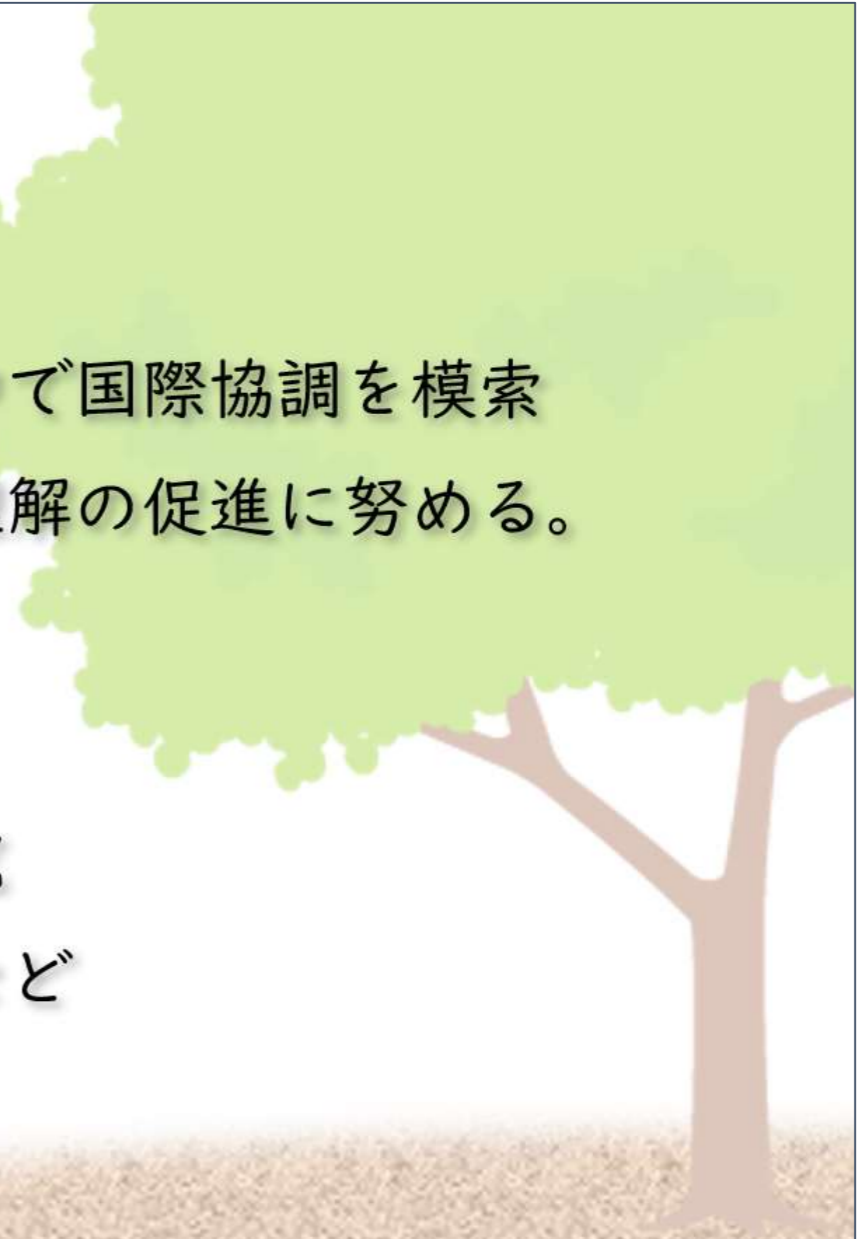
- ・ 論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」（1916年1月）
 - ⇒ 政治は国民の利福を目的に、国民の意向によって行わなければならないと主張（「民本主義」）
- ・ 黎明会を結成、朝日新聞社での編集顧問兼論説委員etc.
 - ⇒ 藩閥・軍閥など特権階層への批判、帝国主義外交への批判にも

③ 国際的な活動

= 第一次世界大戦後の国際的な「民族自決」の動きの中で国際協調を模索
⇒ 特にアジア諸国の民族主義に対する敬意と相互理解の促進に努める。

〈関連事項〉

- ・ 対中国 ⇒ 革命運動家との交流、中国革命史の研究
- ・ 対朝鮮 ⇒ 植民地支配への批判、留学生への支援など



④ 社会運動家としての活動

= 経済格差や貧困問題の解消を目指し、市民による自発的な社会運動を展開

〈主な活動、関連事項〉

- ・ **賛育会** ⇒ 貧困層の母子を対象に産院、託児所などの経営
 - ・ 家庭購買組合 ⇒ 現在の生活協同組合の先駆け
- 以上2つは **東京大学学生キリスト教青年会 (YMCA)** の派生事業
- ・ 文化生活研究会 ⇒ 合理的な生活様式・考え方の普及
 - ・ 無産政党運動 ⇒ 普通選挙実現後、社会民衆党の結党に協力

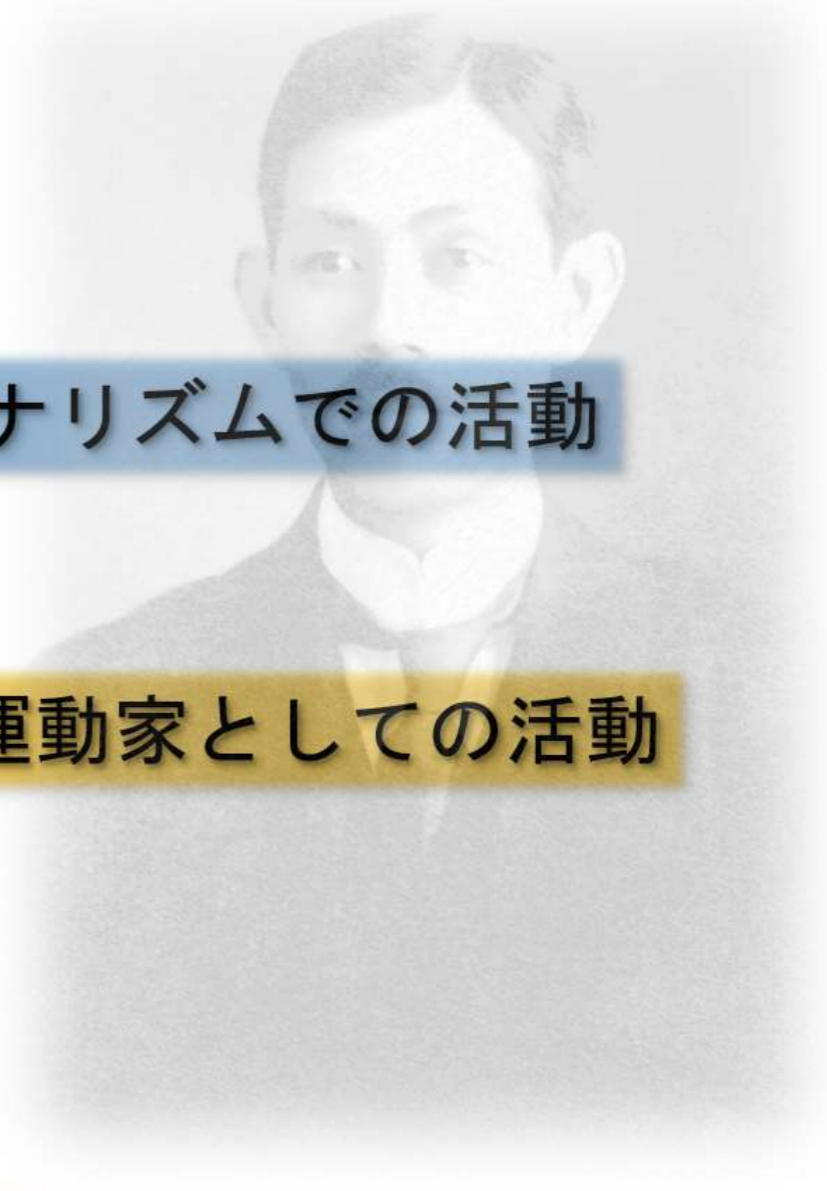
① 学者としての活動

② ジャーナリズムでの活動

③ 国際的な活動

④ 社会運動家としての活動

キリスト教（プロテスタント）信仰
～自由と平等の希求～



2 吉野作造の生涯 ～4つの領域の展開



明治時代—思想形成

1878年（明治11） 宮城県志田郡大柿村（現大崎市古川十日町）で生まれる。

1892年（明治25） **宮城県尋常中学校**（現宮城県仙台第一高等学校）に入学。

1897年（明治30） **第二高等学校（旧制・仙台）**に入学。

キリスト教（プロテスタント）信仰

1897年（明治30） 尚綱女学校（現・学校法人尚綱学院）校長**アニー・S・ブゼ**
ルの聖書教室に参加する。

1898年（明治31） 仙台浸礼教会牧師・中島力三郎から洗礼を受ける。

1900年（明治33） 東京帝国大学法科大学に入学。**本郷教会**の活動に参加する。

〈1904年（明治37） **日露戦争勃発**〉

① 学者としての活動

1905年（明治38） 最初の著作『**ヘーゲルの法律哲学の基礎**』を刊行。

1906年（明治39） 袁世凱の長子・克定の家庭教師として清国に赴任。

明治時代末～大正時代前半—デモクラシーの普及

1909年（明治42） 東京帝国大学法科大学助教授に就任、政治史を担当。

1910年（明治43） 政治史及び政治学の研究のためヨーロッパ留学（～1913年）。

1914年（大正3） 東京帝国大学教授に昇任。

① 学者としての活動

〈1914年（大正3） 第一次世界大戦勃発〉

1916年（大正5） 論文「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」

を『中央公論』に発表。

② ジャーナリズムでの活動

1917年（大正6） 東京帝国大学学生基督教青年会理事長に就任。

④ 社会運動家としての活動

〈1918年（大正7） 原敬内閣成立—日本で最初の本格的政党内閣〉

1918年（大正7） 福田徳三らと黎明会を結成。

② ジャーナリズムでの活動

大正時代後半～昭和初年—晩年の活動

〈1919年（大正8） 朝鮮で三・一独立運動、中国で五・四運動〉

③ 国際的な活動 ② ジャーナリズムでの活動

1923年（大正12） 関東大震災時の朝鮮人虐殺事件の真相究明に取り組む。

1924年（大正13） 朝日新聞社で編集顧問兼論説委員になるも舌禍事件で退社。

1924年（大正13） 明治文化研究会を設立。

① 学者としての活動

〈1925年（大正14） 普通選挙法・治安維持法制定〉

1926年（昭和1） 無産政党・社会民衆党の結党に協力。

④ 社会運動家としての活動

1930年（昭和5） 『明治文化全集』（全24巻）が完結。

① 学者としての活動

〈1931年（昭和6） 満州事変勃発〉

1933年（昭和8） 逗子の湘南サナトリウムで死去（55歳）。